



大祐さんが描いた絵の数々。既存のもの模写だけでなく、自ら考案したキャラクターの誕生日や特徴などの設定まで考えて描く。他にも迷路や図形の組み立てなどが得意。小学生のときに自分で創った「計算しながら進む迷路」も見せてくれた(写真右)

僕の色

発達症と生きる

絵を描く大祐さんの手。自分の考案したキャラクターを丁寧に仕上げる。



皆さんは、発達症という言葉を知っていますか。それは生まれつきの脳機能の働きによって生じる特性。「人とうまく話せない」「特定の作業について、こなすことが苦手」人によってさまざまな症状があります。人は誰一人として同じ人がいないように、これらの特性も見方を変えれば個性になります。苦手なこともあるけれど、特定の分野で「自分らしさ」を表現する人たち。黙々と絵を書く齋藤大祐さんもその1人。彼の周りには、彼を愛し、彼の良さを認め、彼の個性を尊重する人がいます——

考えたことはありません。大祐は、得意不得意なもの偏りは確かにあります。でも、それも大祐の個性や特性。何をしてあげることが彼にとって最善の選択なのか…それは私があるままの大祐を理解し、必要なサポートをしてあげることだと思います」と続けます。その言葉通り、まず彼女自身が息子の自閉症を認め、医療機関や発達相談などの支援につなげていきました。かわい我が子、だからこそすぐには受け入れられない…きつと葛藤はあったはず。「大祐のために早く何かしてあげたかった」と付け加えた亜利奈さんの言葉に、心の強さを感じました。隣に座る大祐さんを見つめながら「できないことがあっても決して怒らず、次はこれをやってみよう」と前向きに声掛け。自立のために必要なことを1つずつ糧にしてほしいと常日頃考えています」と話す母。その目は、彼の意思や自尊心を第一に考えようという優しさに満ちています。

周りの理解が 息子の居場所に

子どもは家庭だけでなく、園や学校などのコミュニケーションで生きています。そうした環境で生きにくさを

大祐は小さい頃から絵を書くことが大好きでした」と話すのは母の亜利奈さん。表紙の絵は、大祐さんがイメージした世界の仲間と、彼自身の幼少期の記憶を重ねて描いたもの。19歳を迎えた彼の絵のタッチは、昔から変わっていません。

突然の診断 驚きと戸惑い

大祐さんが自閉症と診断されたのは2歳のとき。あまり言葉を発さないことから、乳幼児健康診査で、医療機関での受診を勧められたことがきっかけでした。

当時の亜利奈さんは、なかなか言葉が発さない大祐さんを「発達がゆっくりなのかな」と少し気にかける程度でした。そんな心境を一変させたのが「自閉症の傾向がある。脳に言葉を記憶する引き出しが少ない」という医師の一言。

亜利奈さんは「その時はただ驚くばかりでした。自閉症という言葉聞いたことはありませんが、実際にこういうものか知らなかったのだ」と、母子健康手帳を眺めながら当時の胸の内を振り返りました。

息子のために 私自身が向き合う

「これまで診断結果をマイナスに



感じさせないためには、周りの理解も必要なこと。これは、亜利奈さんが最も感謝していたことでした。

「園や学校の先生、大祐の友達や保護者など、多くの方が大祐のことを理解してくださり、周りで支えてくださいました。登校を嫌がることもなかったのです。楽しい学校生活を送れたのでしょうか。ね？」と隣に座る息子に呼び掛けました。

成長を続ける息子の背中を見守る

大祐さんは現在、就業に向けた自立訓練所に通っています。「楽しく無理せず生きてほしい。好きな絵を生かして自立…親のエゴですかね」と微笑む母。広げたノートに書かれた絵。「何を書いたの?」という広報担当の質問に、はにかみながら答えてくれた大祐さん。大らかで純粋な表情が、彼らしく生きてきた19年間の人生を物語っていました。

受け止め、向き合うことで楽になれた 楽しく無理せず生きてほしい——



実体験を語ってくれた
ありな
齋藤 亜利奈 さん
子育てのモットーは自然
体で接し、子どもの意思
や自尊心を尊重すること。

兄弟3人で 思い出の一枚
後ろから長男・大祐さん
長女・春香さん
次男・駿祐さん



幼少期の大祐さん

弟との関わりがあったから 今の自分がある。

幼少期は「どうして弟ばかり…」と、不公平に感じることもありましたが、発達症のことも、当時の母の感情も、きちんと理解はできていなかったと思いますが、母は弟に対して怒ることはありませんでした。小学校の休み時間では、4学年離れた私のもとに遊びに来る弟。周りの友達は当たり前のように受け入れてくれました。私自身、弟の発達症の

ことで、恥ずかしさやコンプレックスを感じたことはありません。弟は、学校や家庭で周囲に認められながら育ってきたと思います。私にはもう1人、10歳年下の弟がいます。2人の姉としての体験や記憶が、保育士という職を選択する1つのきっかけになりました。家族間の関わり…特に親子関係は大切。家庭でのお子さんとの時間を大切にしていきたいです。



姉・春香さん